

# SUSTAINABLE WEEK

ANNUAL REPORT



2019

The year '2019' is rendered in a large, blue, serif font. The zero is stylized as a circular hub with various sustainability icons radiating from it. These icons include a tree, a factory with smoke, a gear, a leaf, a fish, a recycling symbol, a water drop, and a bird. The background is a solid light blue.

# 目次

はじめに	2
------	---

Sustainable Week 実行委員会	3
------------------------	---

## 2019年度プロジェクト紹介

- むらのこ成果報告会 / SDGs リーダー育成プログラム	7
- SDGs 交流会	8
- エキスポーツ 2019	9
- 日経ソーシャルビジネスコンテスト学生版 Meet Up 関西	11
- 地球市民会議	12
- 立命館地球市民会議	14
- インパクトゼミ	16
- Sustainable Week 2019	19
- SW2019 成果報告会 xChannel	20
- 事例報告 / ブース出展	21
- 大学交流	22

講評・謝辞	23
-------	----

おわりに	24
------	----

メディア掲載・実績	25
-----------	----

# はじめに

## 2030年、あなたはどんな世界にしたいですか？

「戦争のない世界」「貧困のない世界」「格差のない平等な世界」

いろいろ答えは出てきそうです。

では、次の質問です。

## その世界を実現するためにあなたは何をしていますか？

### あるいは何をしますか？

自分にできることはあるのか。戦争をなくすなんて自分にはどうすることもできないのでは…。

そんなふうに考えてしまう人もまだいるのではないのでしょうか。

## 何を信じて、何を選択するのか。

2030年をどのような世界にするのかは私たち一人ひとりの手にかかっています。

しかし、2030年に思い描く世界を実現するための手段に正解は存在しません。

答えのない問いに対して、私たちはとにかく行動し続けるしかありません。

2017年に Sustainable Week 実行委員会が立ち上がってから3年目となった2019年度。

この1年間、私たちは**共感・発信・繋がり**という3つのキーワードを意識しながら、団体のミッションである次世代SDGsリーダーの育成に向けて「まずはやってみる」精神でプロジェクトを打ち出し続けました。これまでに繋がってきた方とも連携しながらプロジェクトやイベントを実行、発信し、またそこで生まれた新たな繋がりからプロジェクトやイベントが生まれることも多々ありました。特にSDGs交流会やエキスポーツ2019、インパクトゼミは、他大学の学生、地域、社会と広く密に繋がりを持ち、連携しながらプロジェクトを実施しました。これにより、Sustainable Week 実行委員会としてより多くのプロジェクトやイベントを実行できるサイクルを創出できたと考えています。また同時に一人ひとりの挑戦したいこと、やりたいことが実現できる環境が整ってきたとも感じています。

本報告書では2019年度に Sustainable Week 実行委員会が主催したプロジェクトの一部を厳選して紹介しています。本報告書が少しでも2030年に向けての皆様のアクションを考えるきっかけとなることを願っています。

2019年度 実行委員長

亀石 弥都



# Sustainable Week 実行委員会

## Sustainable Week 実行委員会とは

国連が掲げた地球規模での SDGs（持続可能な開発目標）の解決を、様々な分野で活動する学生たちが活動内容や専門性を活かしながら、大学・地域を巻き込んだプロジェクトを行っています。立命館大学びわこ・くさつキャンパスを中心に、学生自身が時代・社会・人が刻々と変化する未来の持続可能性について考え、マイプロジェクトとして表現する機会を自分たちで創出しています。



## 私たちの目指す 2030

当団体に関わった学生・若者が、ここで身に着けたマインドやスキル・システムを最大限活用して新たなフィールドで活躍する「増殖型 SDGs エコシステム」を実現することを目指しています。

そのために自己表現、学生同士・社会との連携など SDGs 達成に向けた取り組みを通して、次世代リーダー育成の場として、皆が常に挑戦しやすい組織づくりを心掛けています。



VISION

大学を核として、周辺地域を巻き込む増殖型 SDGs エコシステムを創造する



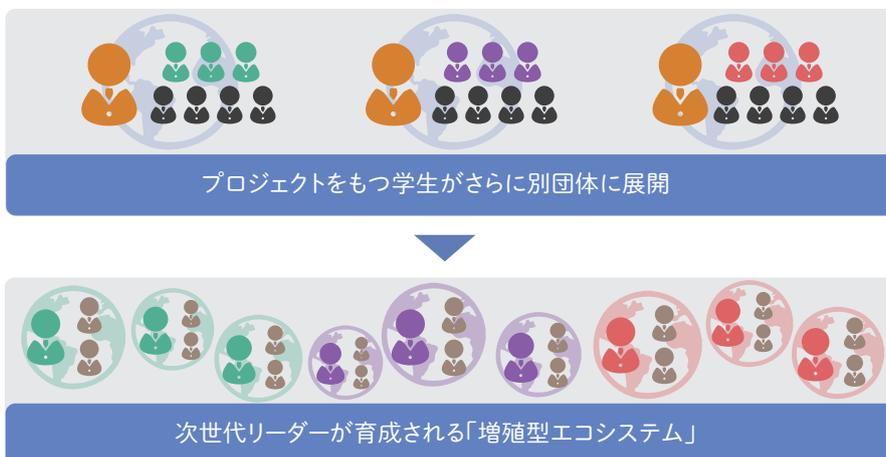
MISSION

学生同士が連携し、社会と繋がりながら主体的に課題解決に取り組む次世代の SDGs リーダーになる



VALUE

学生が持続可能性について深く考え、自己表現できるサステイナブルキャンパスを実現し、そこから社会課題解決に向けた提言を行う



### 3年間の経緯と2019年度の特徴

開催初年度の Sustainable Week 2017 は「はじめよう、僕らの未来デザイン」のテーマのもと、1週間で全てのSDGsのゴールの達成を目指し立命館大学の27のサークルや学生団体が集まりプロジェクトを行いました。開催期間中には累計で約2,300人が参加しSDGsの認知・啓発を行いました。2年目は第1回大学SDGs ACTION! AWARDSでグランプリを受賞した「誰一人取り残さないSDGsカレー」の商品開発を進めながら、Sustainable Week 2018までに「知る・考える・発信する」と段階を踏んだイベントを行いました。



3年目となった今年度は「共感・発信・繋がり」の3つをキーワードに様々なステークホルダーと連携しながら、年間を通じてSDGsのゴールを達成していくことを目指してきました。最終的にはプロジェクトの主催、出展、活動事例紹介を合わせて約50のプロジェクトやイベントに携わり、その成果を発信する場として Sustainable Week 2019を開催しました。



# 数字で見るSustainable Week

Sustainable Week の特徴を表す団体情報を数字にしてまとめたデータです。

※2020年3月時点・当団体調べ

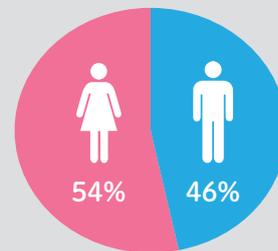
## メンバー数

学部・回生を問わず  
3キャンパスから集まっています。

 **15**名

## 男女比

女性メンバーが少し多めです。



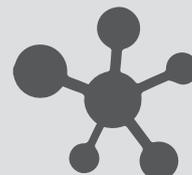
## 年間プロジェクト数

所属メンバーみんながプロジェクト  
を引っ張るSDGsリーダーです。

**50**コ 

## ステークホルダー数

学生のみならず、行政・企業  
NPO団体と連携しています。

 **50**団体

## 設立年数

気付けば3年の間、さまざまな  
活動をしてきました。

 **4**年目

## 年間活動費

助成金・協賛金を頂きながら  
活動しています。

**200**万円 



2019 年度  
プロジェクト紹介

# SDGs 地域共創型プログラム むらのこ成果報告会

2018年12月から2019年2月にかけての3ヶ月間、滋賀県甲賀市をフィールドに学生と地域の方が共に課題解決に取り組むアイデアを生み出すプログラムを実施しました。プログラムでは、イノベーションワークショップやフィールドワークを行い、積極的な発信と

フィードバックを繰り返しました。学生の「やってみたい」という内発的動機から提案できるまでのプロジェクトに深化させることができました。この活動で得られたチームプロジェクトのノウハウは2019年度の活動の発展につながりました。



詳細はこちら▲



## SDGs リーダープログラム - 個人が主体的に生きる社会を作るには -

公益財団法人松下政経塾と連携して行った本イベントは、ゲストにその第1期生である株式会社伊勢福社長の橋川 史宏氏をお招きし、リーダーとは何か、現在の取り組みについてお話していただきました。また、橋川氏と社会連携担当部長の白岩 正三氏や現

役塾生の薄井 大地氏、Sustainable Week 創設者の上田 隼也氏によるパネルディスカッションを行い、リーダーが持つべきマインドや意識していることなどについての意見交換を行いました。その中で情熱をもって主体的に動く大切さを会場全体に共有できました。



詳細はこちら▲



# S 住友金属鉱山(株)プレゼンツ新入生歓迎企画 SDGs 交流会

SDGs に意欲的に取り組む住友金属鉱山株式会社に協賛いただいた本イベントは、SDGs に関する取り組みの発信、SDGs に関心をもつ学生・教職員・企業の交流の場として開催しました。学生団体の代表らによる SDGs キャラバン、住友金属鉱山 CSR 部の

中原 悠貴氏と人事部の若原 大氏（当時）から企業の CSR と SDGs の取り組み発表をしていただきました。また、参加者の中から希望者によるピッチを行い、参加者全員が自由に意見交換できるネットワーキングも実施しました。



詳細はこちら▲



## VOICE - 担当者の声 -



住友金属鉱山株式会社とは、2019年2月に参加した第2回 大学 SDGs ACTION! AWARDS でお話ししたことをきっかけに本イベントの実現に至りました。これまで当団体は、学内外でたくさんの学生団体・組織とのネットワークを築いてきました。そこで当団体がハブとなり、また新たにSDGsに興味をもつ新入生や学生にもオープンな交流の場を設けることで、新しいコミュニティの形成に繋がったことを嬉しく思います。

西野 日菜（理工学部3回生）

# エキスポーツ 2019

## - くさつ・しが SDGs 交流会 -

COI アクティブ・フォー・オール拠点（立命館大学・順天堂大学）と共催で行った本イベントは「スポーツ」を軸に「食」、「健康」、「研究」などを通して、世界共通の目標であるSDGsへの理解を深めることを目的として開催しました。参加者が大学生と交流しながら体

験できるバドミントンやパラスポーツ、ロボットを利用した実証実験、セミナーなど多くの企画を実施し、小さい子供から年配の方まで約400人の参加者が楽しみながらスポーツを通じてSDGsの理解を深めることができました。



詳細はこちら▲



# エキスポーツ 2019

## くさつ・しが SDGs 交流会

2019年 **5/26日**  
10:00～17:00 (9:30開場)

**立命館大学 びわこ・くさつキャンパス スポーツ健康commons**

一部企画には参加申込が必要です。詳細はWebで検索、またはQRコードよりご確認ください。  
<https://sustainableweek.org/archives/1759>

※各企画には人数制限があります。予めご了承ください。  
 ※各企画にはお気を付けてください。  
 ※動きやすい服装をお願いします。

500名限定！  
「ボディメンテドリンク」プレゼント  
アンケートに回答いただいた方に贈呈いたします。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会  
[sustainableweek@gmail.com](mailto:sustainableweek@gmail.com)  
 立命館大学 BKC リサーチオフィス COI 担当  
 ☎ 077-561-2802 / 090-9215-1784 (当日のみ)

共催 ▶ 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会、COIアクティブ・フォー・オール拠点（立命館大学・順天堂大学）  
 後援 ▶ スポーツ庁（伊藤中）、滋賀県、京都市、京都市教育委員会（伊藤中）、  
 滋賀県立大学（伊藤中）  
 協賛 ▶ アラックスシヤード株式会社、大宮製菓株式会社、  
 株式会社滋賀銀行、株式会社豊田スタジアム、株式会社イビ、  
 株式会社研究開発、株式会社北野研究開発、立命館ローカル（C）、イノベーション研究機構  
 協賛者 ▶ Comix、Tallinn、立命館大学物産部（C）、maru、立命館大学 AJZ（C）、立命館大学アーキテクチャセンター、  
 立命館大学 S&S（C）、立命館大学学生生活支援センター、立命館大学学生生活支援センター、立命館大学学生生活支援センター、  
 立命館大学学生生活支援センター、立命館大学学生生活支援センター、立命館大学学生生活支援センター

「エキスポーツ」というネーミングには、多様な人々が集まるエキ、スポーツのエキスポ（万博）、大学らしいSDGsをExport（外に伝える）という3つの意味が込められています。人や知識・可能性が集うキャンパスで、立命館らしい形のSDGsを表現したものがエキスポーツ2019です。





時間	1F アリーナ A面	1F アリーナ B面(手前)	1F アリーナ B面(奥)	2F ミーティング ルーム	2F 多目的 スペース	2F アクティブ テック	フロンティア アベニュー	commons前 芝生 (屋外)	知るカフェ 横
10:00	開会式								
10:30	交流企画 バドミントン								
11:00	大学生と 交流								
11:30	コーディネーション トレーニング								
12:00	ライス ボール セミナー								
12:30	健康 × テクノロジー								
13:00	交流企画 卓球								
13:30	パラ スポーツ 体験 コーナー								
14:00	SDGs × まちづくり ワークショップ								
14:30	自転車 × SDGs 展示・体験								
15:00	交流企画 バスケット ボール								
15:30	食セミナー								
16:00	大縄大会								
16:30	閉会式								
17:00	※屋外企画は雨天時はアリーナB面にて行います。								



スポーツは私たちにとって大変身近なものであり、人を集め、巻き込む力があります。オリンピックやサッカーのワールドカップはまさにその典型例です。また、スポーツから社会課題も見えてきます。環境問題や障がい者への偏見・差別など挙げると枚挙に暇がありません。そうした中で、スポーツをする、見る、支えることで同じ空間で同じ空気や感情を共有して得た「共感」は課題解決やSDGs達成に対する志を広げ、共にSDGsに取り組む仲間を増やすことが期待できます。

## VOICE - 担当者の声 -



本イベントは、研究部とはじめて共催で行ったものです。職員の方々と度重なる打ち合わせを行い、学生ならではの視点を意識して研究の新たな発信方法を模索した結果、スポーツをきっかけにSDGsや研究を知る・体験するイベントを実施するに至りました。本イベントを通して企業・行政だけでなくNPOや様々な学生団体など多様なステークホルダーと連携することができ、これまでにない多くの参加者に会えました。記録と記憶に残るようなイベントが開催できたことを誇りに思います。

岸本 俊輝 (理工学部3回生)

# 日経ソーシャルビジネスコンテスト

## 学生版 Meet Up 関西

第3回日経ソーシャルビジネスコンテストに先駆け、関西の学生を対象に Meet UP を開催しました。本イベントは社会課題解決をビジネスに積極的に取り組むことが求められている世界的な流れを受けて、日本経済新聞社と共同で実施しました。第1部では「SDGsとは

何か？」を学んだ後、様々な視点から社会課題解決に取り組む企業、および社会起業家によるケーススタディを実施しました。第2部ではイベント来場者全員にご参加いただき、ワークショップを行いネットワークを広げました。



詳細はこちら▲



# 地球市民会議

## SDGs 表現論イベント

アイデアをSDGsの枠組みでプロジェクトに発展させることを目的に計3回実施しました。第1回はSDGsのレクチャーや講演会を中心としたインプット、第2回がインプットとディスカッションや発表などのアウトプットを半分ずつ、第3回ではアウトプットを重視しました。

また、イベントは一般社団法人CEO協会との共催で行い、実践者講演では、登壇者として代表理事の中村誠司氏をお迎えしました。誰でも社長を経験できる社長プロジェクトを立ち上げた経緯など、学生に向けた熱いアドバイスをいただきました。



詳細はこちら▲



## VOICE - 担当者の声 -



本イベントは、2019年度秋 semester に開講した「SDGs 表現論」の先駆けとして開催し、当団体メンバーのプレゼンテーションやファシリテーターなど授業運営に必要なスキルを身に付けることができました。さらに、同様の内容をオンラインで行う「仮想地球市民会議」も行い、マイプロジェクトとして発展するために必要な要素などを授業に向けて探ることができました。

中西 優奈 (生命科学部3回生)

# 立命館地球市民会議

立命館附属高校4校に大学生やゲストの方が出向き、SDGsに関連した学習のサポートを行いました。4校それぞれの特色があり、例えば立命館守山高校では生徒が夏季課題として取り組んだSDGsに関するフィールドワークの発表を講評しました。単なる交流に終わることなく、私たちの活動で得てきた知見、マインドやスキルを挑戦したい高校生たちに伝える機会となり、高大接続を強くするきっかけにもなりました。



立命館慶祥高校



立命館宇治高校



立命館高校



立命館守山高校

NO. 1

2019.9.10  
立命館宇治高校

立命館宇治高校卒業の生命科学部 木村 修平 准教授をお招きし、SDGs時代に必要となる情報リテラシー教育として、持続可能性・社会貢献などの正義感をかき乱すフェイクニュースを知るワークショップを実施しました。高校生はパソコンを用いて、社会では当然と思われることが実は嘘であっ

たり、自分たちがいかに情報搾取されているかを実感してもらうことができました。また、自分がやりたいことを行い、一次情報となる必要性やプロジェクトを巻き起こす必要性を伝えました。



詳細はこちら▲

## No.2

2019.9.13  
立命館守山高校

文社探究Ⅰという授業の夏季課題でフィールドワークに取り組んだ高校生がその成果を発表を行い、大学生が講評するという形式で実施しました。高校生たちはグループごとにテーマを設定しており、中には大学生にとっても学びがあるテーマも多くありました。大学生からは、取り組みの目的を

より明確にすることや、取り組むまでに必要な準備や結果の評価方法といったこれまでの経験を伝えたり、高校生からの質問や相談を受けてアドバイスを送りました。



詳細はこちら▲

## No.3

2019.9.17  
立命館慶祥高校

中高生約40名が参加し、校友であるバイオマテリアル株式会社社長の菊池 貞雄氏の講演に耳を傾けていました。その後実行委員会のOBによる、自分の興味や関心から地方で活躍することについての講演を行いました。ワークショップでは大学生と中高生がグループを作り、中高生らの興味関心

のあることや今後やりたいこと、また今悩んでいることなどを自由に話しました。大学生から新たな考え方のアドバイスを送るなど充実したディスカッションとなりました。



詳細はこちら▲

## No.4

2019.9.24  
立命館高校

GL(国際)コースの生徒らとともに、2019年のRSGF(Rits Super Global Forum)のテーマである「プラスチック問題」の現場リサーチとして京都府亀岡市を訪れました。市内のスーパーマーケットや保津川を視察した後、亀岡市長の桂川 孝裕氏や市の環境政策の担当者から亀岡市の取り組みについてお話を聴き

ました。最後に1日の振り返りとして当団体がワークショップを行い、プラスチック問題をはじめSDGs達成に向けて自分にできることが何かを考えました。



詳細はこちら▲

# インパクトゼミ

周りの仲間を惹きつけるコミュニケーション能力、圧倒的な表現力、そして共感を生む発信力。これからの若い人材が生きていく上で必要となる様々な力を学ぶことを目的としたゼミを開催しました。2019年度は「持続可能なまちづくり」、「イノベーション

マインド」、「若者と女性が活躍するには」、「サステナビリティ」の4つのテーマで行いました。また、各分野で活躍されている社会人をゲストに迎え、学生の活動紹介やテーマに基づいたディスカッションなどを行いました。



NO. 1

2019.9.25  
@まち家オフィス結



GUEST

越直美氏

ハーバード大学ロースクールを修了。  
2012年1月から2020年1月まで大津市長を務めた。

第1回はゲストに大津市長（当時）の越直美氏をお招きし「MaaSと交通戦略」についてご講演いただきました。学生登壇者として当団体メンバーの中西優奈、岸本俊輝が「SDGsとマイプロジェクト」、「ロボットキャンパス」についてお話ししました。講演後は、「持続可能なまちづくり」

について2グループに分かれてディスカッションを行いました。本イベントを通じて、モビリティに関する新たなプロジェクトが立ち上がりました。



詳細はこちら▲



## No.2

2019. 10. 21  
@立命館朱雀キャンパス

第2回はゲストに学校法人立命館常務理事の建山 和由氏をお招きし「イノベーションマインド」についてご講演いただきました。学生登壇者として立命館大学 映像学部3回生の小川 玲香さん、立命館守山高等学校ユネスコ学生委員会の生徒4名に「エンターテインメントを通して創りたい未来」、「絵

本を通してジェンダー平等を改善する」についてお話しいただきました。参加者に向けて、「挑戦し続ける」ことの大切さについて共有しました。



GUEST

建山 和由氏

学校法人立命館 常務理事  
(企画担当)  
一般社団法人 SDGs Impact  
Laboratory 理事



詳細はこちら▲

## No.3

2019. 11. 2  
@ここ滋賀

第3回は東京・日本橋にあるここ滋賀で行いました。ゲストに内閣府男女共同参画局長 池永 肇恵氏をお招きし「若者と女性が活躍するには」についてご講演いただきました。学生登壇者として芝浦工業大学 SDGs 学生委員会 -綾いと- の学生、群馬県立館林女子高等学校の生徒に「災害とジェンダー」、「大学での

SDGs の取り組み」についてお話しいただきました。ディスカッションでは学校も年齢も異なる様々な参加者が集い、ジェンダー平等について他人事ではないことを共有しました。



GUEST

池永 肇恵氏

2016年1月から2018年7月  
まで滋賀県副知事を務めた。  
その後、内閣府男女共同参画  
局長に就任。



詳細はこちら▲

## No.4

2019. 12. 12  
@立命館大学大阪・いばらきキャンパス

第4回はゲストに立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 近本 智行教授をお招きし「サステナビリティな社会の実現とは」についてご講演いただきました。学生登壇者として立命館大学 経営学部3回生の玉木 春那さん、国際関係学部3回生の小杉 日奈子さんに「サステナブルであり続ける食と

は」、「海ごみをなくす」についてお話しいただきました。共通の興味を持つ仲間を巻き込むことが活動の幅を大きく広げるという実践例を参加者に発信しました。



GUEST

近本 智行氏

理工学部建築都市デザイン学科  
教授。立命館サステナビリティ  
学研究センター長を務める。



詳細はこちら▲

# Sustainable Week 2019

2019年度のプロジェクトの集大成として開催し、これまでに繋がった関西内外の学生団体や組織に協力していただきました。1週間を通して数多くの展示企画を行い、土日を中心にパネルディスカッションや団体

企画等の催しを実施しました。物販でのPayPay導入、パネルディスカッションでのロボットを使用しての出演など、先進的な演出も行い、学生の自由な挑戦を体現する場にもなりました。



詳細はこちら▲



## Be an Impact Producer.

SDGsに取り組む仲間を増やすために、心を突き動かすインパクトを与えて行動変容に繋げる。  
そのようなインパクトを作り出すことのできる人になっていこうという思いを込めています。



## VOICE - 担当者の声 -



2019年度の集大成であり、次年度に向けてさらに仲間を増やしていくきっかけの場になればとの想いを込めて、開催テーマを「Be an Impact Producer.」としました。自らがインパクトを与えることを生み出し、参加者から何かアクションを起こす人が現れてほしいという願いを込めました。Sustainable Weekでできないことをメンバーの協力により成し遂げることができました。何よりも印象的だったのはこれまで取材する立場にいた学生が Sustainable Week を通して取材を受ける立場になったことです。Sustainable Week の1つの役目を果たせたことが大変嬉しく思います。

亀石 弥都 (スポーツ健康科学部 3 回生)

## シンポジウム「大学を超えてSDGsに取り組む」



学校法人立命館総長 仲谷 善雄氏をはじめ、校友であり当団体のOGである渡邊 里々子氏、9月にみやこKAMADOKIプログラム\*を受講した学生3名をパネリストに迎えて、「大学を超えて横断的にできるSDGs達成に向けた取り組み」をテーマに議論しました。今回パネリストとして迎えた学生3名はそれぞれ京都大学、龍谷大学、立命館大学と異なりましたが、同プログラムの受講により繋がって、学生自ら大学の枠組みを超えてSDGsへ取り組んでいます。

モデレーターを務めた副実行委員長の中西 優奈は、「まずは学生が『楽しい』と思って取り組むことが大事。それから多様性を生み出して課題を3次元的に捉え抜本的なアイデアを生む。大学生は持続可能な取り組みとしていくために大学と地域社会のハブとなっていく役割が求められている」とまとめていました。

## \* みやこ KAMADOKI プログラム

[詳細はこちら▼](#)

SDGsを達成するためのネットワーク形成を目的とした、1か月のSDGs超実践型プログラムです。多様な受講生で構成されたチームメンバーと協働して、社会課題を解決するために必要なマインドとスキルを実践的に身に付けることを目指します。



## シンポジウム「SDGs 表現論特別企画」



SDGs表現論\*\*を担当する生命科学部の山中 司教授、校友である同志社中学校の濱野 優貴教諭、高校生2名と小学生1名をパネリストに迎えて、「社会にインパクトを与えるには」をテーマに議論を交わしました。出張先からオンラインで出演した山中教授は会場ではロボットで出演するという先進的なパネルディスカッションでした。

高校生や小学生のマイプロジェクトや将来の夢やこれからの想いを話してもらい、濱野教諭は中学校でのSDGsの取り組みと挑戦していく難しさやこれから実現したい教育環境についてお話していただきました。山中教授は「受信を一度止めて発信することが大事」と話し、自分の思いや活動をどんな形でもいいので人々に伝えていく重要性を説きました。

## \*\* SDGs 表現論

2019年度後期、衣笠キャンパスで教養ゼミナール「SDGs表現論一次世代リーダーの育成」を開講しました。このクラスの目標は、受講後も継続し、発展していくようなマイプロジェクトを立ち上げることです。2020年度は3キャンパスで開講されます。



## 社会システム研究所シンポジウム

「地域の自律の意味を考える」と題したシンポジウムをエポックホールで開催しました。立命館大学の研究者、甲賀市職員、学生の3者の視点で地方創生に関連した研究や活動報告、パネルディスカッション形式での意見交換を行いました。パネルディスカッションでは「SDGsは本当に地方創生の起爆剤になるか」をテーマに議論が進み、モデレーターを務めた生命科学部4回生の戸簾隼人さんは「若者が地域創生に携わる際に考えることとして、①連携と実行のスピードアップ、②活動を達成することに重点を置く、③課題遂行プログラムの設定の3つが挙げられる」とまとめていました。



## 学生団体企画

当団体が1年間で繋がった多様な学生団体が、自身の活動を自由な形で発信する場を設けました。

EntervibeはARを用いた江戸のサステナビリティの表現、京都にあるminibarとのコラボで水槽の水の色を変化させる演出を行うなど、エンターテインメントによってSDGsに親しむことを促しました。国際協力団体IROHAはカンボジアでの活動を通して学んだ現状をパネル展示で伝えました。ASOBASEはロヒンギャ問題を現地取材した写真を展示し、目で見た現地の様子を伝えました。

また物販ではPayPayを試験導入し、地域で活動してきたTaBiwa+RとBONDがそれぞれ甲賀市、沖島の協力のもと、名産品を使ったお菓子や料理を振る舞いました。

その他、SDGsをより分かりやすく楽しく学ぶカードゲームや、留学生たちに農業をもっと知ってもらうための農業スタディツアー、食品ロスに関する意識調査などが行われました。



## 展示企画

Sustainable Week 実施期間中、セントラルアークの表現のジャングルにおいて以下の展示を行いました。

- ・住友金属鉱山(株)のポスター
- ・(株)滋賀銀行のポスター、パンフレット
- ・みやこ KAMADOKI プログラム スタジオプログラム成果物
- ・同志社中学校社会科、美術科のSDGsに関する成果物
- ・九州大学沖縄県人会の取り組みポスター
- ・滋賀大学サステナウィーク企画ポスター
- ・TaBiwa+Rの活動紹介ポスター
- ・立命館大学 COMARS の活動紹介ポスター



# X Sustainable Week 2019 年度成果報告会 channel

当団体と TaBiwa+R、立命館大学 COMARS の3団体による 2019 年度成果報告会「xChannel」を開催しました。なお、本イベントは 2019 年度滋賀県内大学 SDGs 補助金受給団体としての成果報告も兼ねて行いました。各団体からの活動報告の後は、今回

の成果報告会に参加して下さった芝浦工業大学 SDGs 学生委員会 - 綾いと -、岡山大学 SDGs アンバサダーの学生とのトークセッションを行い、互いの活動から新たな気づきや得ました。オーディエンスとの質疑応答でも活発な意見交換が行われました。



詳細はこちら▲



# 事例報告



2019. 6. 13

第一回 Asian Sustainable Campus Network

(ASCN) にてポスター展示と口頭発表を実施。

EXCELLENT STUDENT ACTIVITY AWARD を受賞。



詳細はこちら▲



2019. 8. 8

私立大学環境保全協議会 第 33 回夏期研修

研究会 グループ討議「教育と連携」にて

当団体から 2 名が事例発表を実施。



詳細はこちら▲

# ブース出展



2019. 4. 28

第 51 回草津宿場まつりに参加。

草津川跡地公園 de 愛広場にてポッチャ体験の

ブースを出展。



詳細はこちら▲



2019. 10. 13

立命館でアジアとつながる国際交流フェスタ

「Asia Week 2019」にて、食のありがたみを

テーマに「Beyond Meet in Asia Week」実施。



詳細はこちら▲



# 大学交流

近年、全国の多くの大学でSDGsをテーマとした学生団体・活動が活発になってきています。そのような学生とのネットワークをより強くすることで共に活動する仲間を全国に増やすことができます。

本年度は滋賀県や関西の大学はもちろんのこと、全国各地の学生団体と協力し、活動紹介を兼ねたキャンパスツアーや他大学のイベントでの活動報告などを行ってきました。



2019. 2. 17

当団体、アイセック滋賀大学委員会、滋賀県立大学、近江兄弟社高校がキャラバンを行った滋賀SDGs交流会をラコリーナ近江八幡で実施。



詳細はこちら▲



2019. 8. 25

滋賀県立大学にて実施された「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション-近江のくらしとなりわい-」でワークショップを実施。



詳細はこちら▲



2019. 9. 6 - 9. 7

岩手大学環境マネジメント学生委員会の学生に向けたキャンパスツアー・交流会を実施。



詳細はこちら▲



2019. 11. 26

滋賀大学サステナウィーク 2019にて「SDGs表現論」をテーマとした講演会を実施。



詳細はこちら▲



2019. 12. 21

第1回次世代SDGsフォーラム～SDGs for You～ @ 芝浦工業大学にて当団体から亀石がパネラーとして参加。



詳細はこちら▲



2020. 2. 27 - 2. 28

岡山大学SDGs学生アンバサダー、芝浦工業大学SDGs学生委員会-綾いと-の皆さんに向けたキャンパスツアー・交流会を実施。



詳細はこちら▲

# 講評

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会（以降、SW）はその名の通り、キャンパスを舞台とした1週間の企画から始まりました。それぞれ異なるバックグラウンドの学生がSDGsの枠組みに感化を受け、お互いが結びつき、自分たちにとって身近なキャンパスから何か表現したい、発信したいという想いをカタチにして、世に問いかけてきました。その活動は3年が経過して、学生団体としてその想いを汲む後輩たちが加わり、さらに新しい発想や行動力が持ち込まれたように思います。

今年度を振り返ると、全国からたくさんの期待や依頼が寄せられ、1年を通じてそのひとつひとつに想いをもって取り組んでこられたことと思います。SWとしてのこれまでの活動の積み重ねが確実に社会に伝わっていることを実感したのではないのでしょうか。

これまでも行ってきたSDGsをもっと身近に、わかりやすくという啓発活動は、さらに体系化され、全国に出向いて行ったワークショップやスタディーツアーのコーディネート等で発揮されました。とくに中学生・高校生など若者世代へのリーチが

できたことは成果かと思います。さらに今年度は啓発活動にとどまらず、甲賀でつながる30日間や先進技術の社会実装実験の参画などのように、それぞれがもつ興味・関心や学部での研究をもとに実際のフィールドに出向いた活動ができました。地域や現場へ入り込み、その場で見聞きしたか生の情報から課題意識をさらに深める、学生なりに社会実装まで意識した提案を報告するという試みは今年の新たな展開であったといえます。これらの活動を通じて、さらに連携がひろがったと思います。学生活動としての限度はあるかと思いますが、SWとしての後輩を育成しながら、ぜひ今後もこのつながりを継続してほしいと思います。

立命館大学 BKC 地域連携室  
課長  
井上 拓也氏

# 謝辞

2019年度のSustainable Week 実行委員会の活動は、世間のSDGsへの認知が広まるとともに、もの凄い勢いでプロジェクトが増えていった印象です。この数が社会の関心を表すのであれば、やっとSDGsを意識する時代に突入してきたと言えるでしょう。これらの活動の質と量を実行委員会でも実現することができたのは、企業、NPO、自治体、大学等に所属される多くの皆様の協力あってだと感じています。本当に関係者の皆様に変な感謝致します。

実行委員会は当初より、SDGsをテーマに自分たちが興味・関心のあること軸に活動を展開してきました。本報告書でも触れていましたが、立命館大学教養ゼミナール「SDGs表現論-次世代のリーダーの育成-」において、立命館大学に所属するほとんどの学生が正課授業としてSDGsを学ぶことができるようになりました。ここで重要なのは、自分のプロジェクトの実現で

すが、SDGsほどの壮大な目標を達成するには1名ではどうしても難しいところがあります。そこでさらに重要となってくるのが「共感」です。

本報告書を手にとられた皆様にも私たちのプロジェクトに「共感」をしてもらいながら、社会にインパクトを与えるようなチームになっていきたいと思っています。引き続きSustainable Week 実行委員会へのご支援をよろしくお願い致します。

立命館 SDGs 推進本部  
イノベーション・オーガナイザー  
Sustainable Week 実行委員会 顧問  
上田 隼也氏

# おわりに

2020年度は、メンバーそれぞれのプロジェクトを1つずつ実現していくことを目指していきます。その過程においてプロジェクトに共感した多様な学生も参画していくことで活動へ関わるステークホルダーの数を増やして団体を中心にエコシステムを構築していくことを目指します。同時に、メンバー個人がプロジェクトのリーダーとして自立し、社会のSDGsリーダーの一員としても活躍できるチャンスを創出していきます。

当団体は引き続き、1人でも多くの方に今からの行動変容を促すインパクトを生み出していきたいと思います。また、これまででできた繋がりを大切にしながら活動し、そして発信を続けてまいります。今後とも、変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会 一同

## 2020年度プロジェクト紹介



### Sustainable Week 2020

SDGs 体験型イベントとしてキャンパスをひとつの地球に見立て、学生が主体的にSDGsに取り組み、発信します。



### Boot Camp

デザイン思考・フィールドワーク・チームビルディングの3つのノウハウを群馬県で高校生と学ぶ3日間。



### Pla Free

プラスチックの削減に向けて大学内から環境問題への意識を変えていきます。



### 新たなプロジェクト

2020年度のプロジェクトは多様性あるメンバーのアイデアから次々と生まれます。

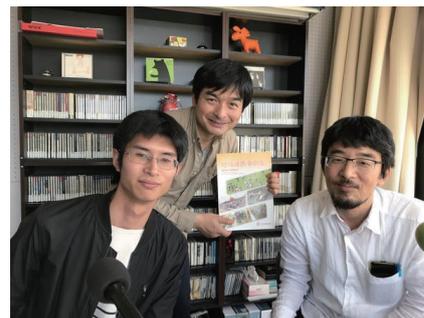


# メディア掲載・実績

2019年度に当団体を取り上げられたメディア掲載などを紹介します。

掲載していただいた内容などの詳細は、各メディアのホームページもしくは当団体 web からご覧いただけます。

- 2019. 3. 12 2018年度 立命館大学 団体表彰 受賞
- 2019. 5. 15 広報くさつ イベント情報に掲載
- 2019. 5. 22 エフエム滋賀「Style!」に出演
- 2019. 5. 24 えふえむ草津「イブニングロケッツ 785」に出演
- 2019. 5. 25 毎日新聞滋賀県版朝刊 地域面「スポーツを通して SDGs を知って」掲載  
京都新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGs への理解を深めて」掲載
- 2019. 5. 27 京都新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGs スポーツ体験で」掲載
- 2019. 5. 29 読売新聞滋賀県版朝刊 地域面「SDGs スポーツで体感」掲載
- 2019. 6. 13 第1回 Asian Sustainable Campus Network(ASCN) にて Excellent Student Activity Award を受賞
- 2019. 7. 4 朝日新聞 DIALOG「学生・教職員・企業が参加した『SDGs 交流会』立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催」掲載
- 2019. 7. 12 東洋経済新報社「東洋経済 ACADEMIC SDGs に取り組む大学特集」に掲載
- 2019. 8. 19 KBS 京都ラジオ「さらピン！」に出演
- 2019. 9 立命館大学父母教育後援会だより 2019年度夏号 特集 立命館大学の SDGs に掲載
- 2019. 10. 28 KBS 京都ラジオ「さらピン！」に出演
- 2019. 11 立命館学園環境報告書 vol.09 に掲載
- 2020. 3. 1 月刊 ビジネスアイ エネコ 地球環境とエネルギー 2020年3月号に掲載
- 2020. 3. 9 2019年度 立命館大学 学生部長表彰 受賞



# Sustainable Week ANNUAL REPORT 2019

---

2020年3月31日 発行

著者 | 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会  
編集者 | 亀石 弥都 (立命館大学スポーツ健康科学部 3 回生)  
岸本 俊輝 (立命館大学工学部 3 回生)  
中西 優奈 (立命館大学生命科学部 3 回生)  
西野 日菜 (立命館大学工学部 3 回生)

発行者 | 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会  
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

連絡先 | [sustainableweek@gmail.com](mailto:sustainableweek@gmail.com)

本書に掲載されている所属及び役職は 2020 年 3 月時点のものです。  
この報告書に関するご意見・ご感想をメールでお寄せいただく際は上記連絡先までお願いいたします。

無断複写・無断転載を禁じます。



団体の活動や日常、メンバーの声を発信しています



**SUSTAINABLE WEEK**  
SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs.

